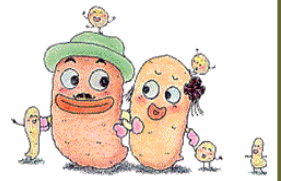


湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

記事:

- ・新年明けましておめでとう
ございます
- ・連載小説
『男でござる 新
説天野屋利兵衛』
第8回
- ・戸田駅前ビアガーデン
「『秋覚祭』を開店
しました」
- ・西徳山いけいけ大
収穫祭 in ソレーネ
周南
「イカ焼きで出店し
ました」
- ・今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山
まちづくりの会」
で一緒に活動しま
せんか。会では、
常時、会員を募集
しています。

E-mail:

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gmail.com

新年明けまして

おめでとうございます

令和5年の新春を迎え、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
私たち西徳山まちづくりの会では、まちづくりの基本は人と人のつながりと考えており、人が集い、語り合い、笑い合い、お互いの良さを認め合い、力を合わせて住み良い地域を作っていくことがまちづくりだと考えています。

令和4年度に入り、行動制限が緩和され、多くのイベントが感染防止策をとりながら開催され始めましたが、私たちの令和4年度の取り組みとしては、新型コロナウイルス感染防止のため、環境美化としての「戸田駅前花壇での花育て」をメインに取り組み、人と人が集う場の提供としての「戸田駅前ビアガーデン」は会員を対象としたイベントにとどめております。

「戸田駅を花の駅にしよう」を合言葉に毎月第2、第4土曜日の16時から戸田駅前花壇のお世話、広場周辺の草取りなどの作業を続けており、私たちの花育ての様子を周南市本庁市民ギャラリーに展示された「花咲け 笑顔咲け 花づくり写真展」で紹介させていただきました。



迎春



自分たちでできることは自分たちで行い、行政にしかできないことは積極的に働きかけていく。『自分たちの住むまちは自分たちでつくっていく』ものです。まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしています。本年もどうぞよろしく願いいたします。

西徳山まちづくりの会

連載小説

『男でござる 新説天野屋利兵衛』

第八回

文城山 耕作

前号までのあらすじ

四郎谷出身の喜兵衛は、船乗りを指して堺の廻船問屋天野屋の船の乗組員になった。元来研究熱心な喜兵衛は操船技術の呑み込みが速く、たちまち船頭に昇格した。彼への評価は、天野屋の三代目当主の利兵衛も注目するところとなった。

三代目天野屋利兵衛には二人の娘があった。姉の梅は、ひそかに四郎谷喜兵衛にこころをよせていた。娘の気持ちを知ってか知らずか、三代目利兵衛夫婦は、わが娘と四郎谷喜兵衛が夫婦になって、天野屋を継いでくれるようにと図って、喜兵衛の承諾を得る。三代目利兵衛と娘の梅、それに喜兵衛も諾として、三者一致してのめでたい結婚となった。

こうして廻船問屋天野屋の婿養子になった四郎谷喜兵衛は、ほどなくして天野屋の家督を受け継いで、四代目天野屋利兵衛となった。

そしてその妻梅との間には直之という男の子が誕生していた。

四代目天野屋利兵衛（二）

しばらくして喜兵衛は、四代目天野屋利兵衛となり、廻船問屋天野屋の経営を任されたのである。梅はおかみとして台所を取り仕切った。二人には念願の男の子ができた。名を直之と言った。すべてが順風満帆であった。

四代目天野屋利兵衛になった喜兵衛は、時々四郎谷の父母のことを思う。

「父母は二人とも息災だろうか。父は今でも小さな畑を作って四郎谷の子供たちに読み書きを教えているのだろうか。母は天性の明るさで父を支えているのだろうか。時々俳諧の本を読んでいるのだろうか。松尾芭蕉の句集を送ってやったら喜ぶだろうか。四郎谷の人たちはみんな達者だろうか。いつか故郷に帰って昔のようにワイワイやりたいな。」

しかし、私は天野屋の四代目利兵衛だ。この堺でも屈指の廻船問屋を取り仕切っている。

目指すは心の師河村瑞賢翁のような世の中の役に立つ立派な商人になることだ。」

四郎谷の父神村将監と母の萬も

「喜兵衛は元氣だろうか、なんでも天野屋の当主になったららしいことは、手紙に書いてあったが、体には十分気を付けて、いつか父母にその姿を見せてほしい。」

四郎谷を出て、月日は矢のように流れて、いつしか廻船問屋の当主になっていたが、いつまでも両親にとってはわが子であった。

挫折

廻船問屋天野屋の経営を引き継いだ四郎谷喜兵衛改め四代目天野屋利兵衛は、時代の波に乗っていた。江戸の人口はますます増えていった。京、大坂での元禄文化の隆盛が物語るように、江戸の経済も活況を呈していた。そうすると米をはじめとする食料品や材木などの生活必需品が、地方から京・大坂、そして江戸へと大きな物流の波となって押し寄せてきたのだった。

廻船問屋は、ますますその必要性が高まり、四代目利兵衛としては、その需要に応えるために、新造船の建造や船乗りの調達のための投資が必要になった。堅実な経営の四代目利兵衛だが、時代の波に抗うことはできず、その大きな利益は、投資へと廻さざるを得なかった。

経済が大きくなると、新規参入の事業者が出てくるのは、あらゆる業界で必然の事であろう。廻船問屋の業界でもまた例外ではなかった。

そこで業界としては、その対策として同業者組合のようなものを作り、業界の保護を図るようになる。価格協定

などのカルテルを結ぶものなども出てくる。

廻船問屋も組合を作り、新規参入に備えたのである。この時代、まだ任意の同業者団体で、新規の参入を防ぐには至っていない。

もう少し時代が進むと、この同業者組合は株仲間という制度化されたものになり、幕府として保護されることになる。老中の田沼時代では、この制度が賄賂へ発展することもあった。

廻船問屋の同業者組織は、業界の保護のためだけではない。お金を出し合っただけで、船の安全運航のための設備などを整えたり、情報の交換によって航路の安全を図ったりもしたのである。

四代目天野屋利兵衛は、業界の中でも一番若く、しかもその手腕は頭抜けていたので、組合の事務局長の立場の役であった。また堺の町の異業種団体である町衆の役員にも就任して、堺の自治を取り締まってもいたので、利兵衛は、同業者や商都堺の町では絶大な信頼を得ていた。

当時の廻船問屋は、船一艘あたり利益は莫大なものであったが、海上での事故、遭難での損失もまた大きなものであった。新規の参入により、経費削減による乗組員の減少、あるいは利益確保による無理な運航による事故も相次いだものと思われる。

そんな事故が天野屋の船にも訪れたの

である。利兵衛は船頭でもあったので、船の乗組員の確保や安全運航については、厳しく注意するように指示していた。

天野屋の遭難転覆事故は、相次いで起こった。都合三回の事故であったが、その原因は杳として掴めなかった。なかには天野屋の経営内容の良さをやっかみ、船に仕掛けをしたとの疑惑もあったが、定かではない。

利兵衛は死亡した乗組員への補償や失った積み荷の荷主への弁償など真摯に対応した。それにより天野屋の蓄えは底をつき、経営は大いに傾いた。

事故を起こした廻船問屋は、信頼が揺らぎ、荷主も減っていき、経営はますます不安定になっていく。

利兵衛は挫折を味わうことになるのだが、彼は諦めなかった。

「わしは、四郎谷を出る時、河村瑞賢のように世の中の役に立つ商人になると誓った。この位で諦めてなるものか。わしには女房も子供もある。これは挫折ではなく、真の商人になる試練だ。」

と唇をかみしめた。
そんな厳しい経営状態の中、いち早く荷主として天野屋に発注をかけた藩があった。

「いつものように塩を江戸まで運んでほしい。」

と注文をしてきたのは誰だろう、播州

赤穂藩五万石であった。しかも

「天野屋においては此度のたび重なる事故は災難であった。見舞いというわけにはいかないが、船賃は前渡しをする。」

ということだ。四代目天野屋利兵衛の絶大な信頼は揺らぐことはなかった。

次に荷主になったのは長州徳山藩。これも運賃先払いを申し出た。元の家老である父親の神村将監の影を感じざるを得ない。

そして次々に顧客は元に戻っていった。前の健全な経営状態になったのであった。

天野屋利兵衛は

「わが人生のうちで、こんなに有難いことがあるのか。赤穂藩にはどんなことがあってもその恩に報いなければならない。」

と誓うのであった。

それもすべては利兵衛の絶大な信頼の成せる業であった。

(以下次号)



編集後記

人間には二通りある。
いつも一歩先を走っていて、または毎日コツコツと積み重ねて、日々の生活に余裕のある人。
もう一つは、日常は我関せずと、すべてを超越して生きているようで、追い込まれると俄然頑張っていて、何とか切り抜ける人の二通りである。
前者のほうが断然理想的であり、お勧めできる。だが、後者のほうもなかなか捨てがたくて、味わいがあり、愛すべき人間であると思うのは筆者だけであろうか。

今連載中の文豪の城山先生は、典型的な後者の部類である。日中はぶらぶらして、日が暮れ始めると酒が欲しくなるそう。原稿の締め切りが近づくと逃げ回り、何とかようやく書き上げると、ご褒美といって、また酒を飲んでおられる。

先生、物語はいよいよ佳境ですね。頑張れ。

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

戸田駅前ピアガーデン

しゅうかくさい

「秋覚祭」を開店しました

令和4年10月29日(土)は少し汗ばむような小春日和の1日で、正午から戸田駅前ピアガーデン「秋覚祭(しゅうかくさい)」を参加者12人で開店しました。

秋刀魚(さんま)、サザエ、イカと一夜干し(カマス、エイのひれ、鯖、鰹)など豊富な海の幸とさつまいもを炭火で焼き、新米むすび、酢の物など新鮮な秋の味覚を堪能しました。島根土産のトビウオの竹輪も美味しくいただき、冷たいビールで喉を潤おしながら、至福のひと時を満喫しました。



西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南

イカ焼きで出店しました

令和4年11月20日(日)9時から、3年ぶりにソレーネ周南で開催された「西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南」に、「イカ焼き」で出店しました。天気が良く、暑いぐらいの1日でした。最初は客足も疎らでしたが、10時過ぎ辺りから人出が多くなり、120杯のイカを準備していましたが、お昼前には完売しました。今後もイベントの際には出店をしたいと思います。ぜひ、皆さんもイベントの際にご賞味ください。



今後の行事予定

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。